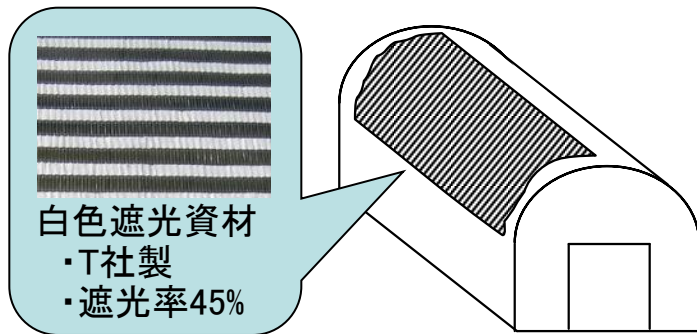


ハウス屋根の西側片面遮光による チンゲンサイの夏季安定生産技術

【背景・目的・成果】

近年の夏季高温や防虫ネット使用によって、ハウス内の高温化が顕在化しています。この対策として、チンゲンサイハウス栽培では遮光資材を使用しますが、光量の減少により軟弱徒長し品質が低下します。

そこで、白色遮光資材を南北棟ハウス西側片面のみに張ることで、午後のハウス内気温上昇を抑制し、徒長による品質低下を回避できます。



西側片面被覆の様子

ハウス内がより高温となる午後の気温上昇を抑制します。

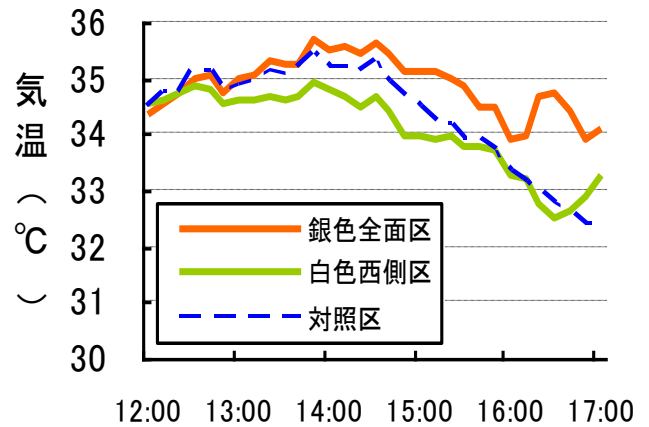
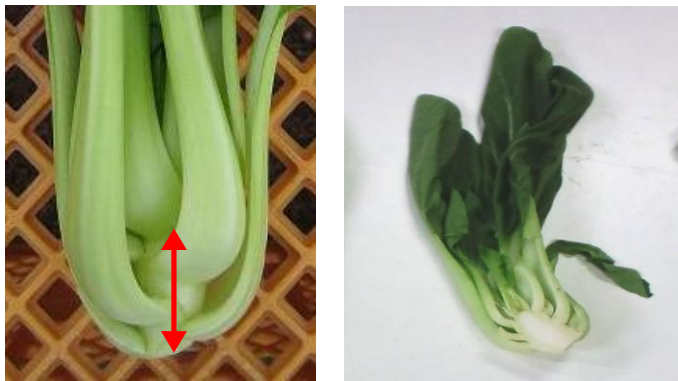


図1 午後12時から17時のハウス内気温の推移



高温や光量不足により軟弱徒長して起こる、節間伸長(写真左)や株のゆがみ(写真右)の発生を軽減します。秀品率向上による、販売額の増加が見込めます。

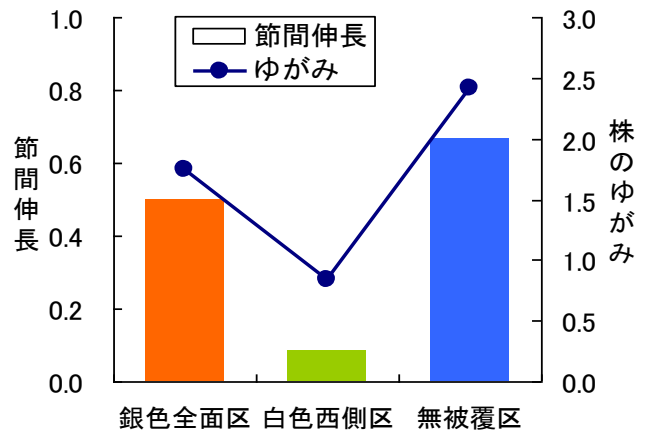


図2 遮光資材と遮光方法の違いによるチンゲンサイ生育障害発生の差
発生状況を0(無)、1(軽)、2(中)、3(甚)と4段階評価

【技術の活用】

本資材の市販価格は、他の資材に対し概ね2倍程度かかります。一方耐用年数は7~8年と長く、被覆に必要な量も全面被覆する場合の半分で済みます。導入に際しては、品質向上による販売額増加等の費用対効果を考慮し、総合的に判断する必要があります。